

Citation: Pereira-Genci T, Cenci MS, Fedorowicz Z, Marchesan MA. Antibacterial agents in composite restorations for the prevention of dental caries. Cochrane Database of Systematic Reviews 2009, Issue 3. Art. No.: CD007819. DOI:10.1002/14651858. CD007819. pub2.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 9 March 2009.

Clib issue No.; N/U: 8 July 2009 in Issue 3, 2009.

背景: 齲蝕は多因子が関わる疾患であり、バイオフィルム(デンタルプラーク)からの細菌による食品中の砂糖の分解は歯面の局所的な脱灰に至り、最終的には齲窩を形成する。コンポジットレジン(コンポジットレジンは歯の修復として歯科で広く使われている。これらの修復物は二次齲蝕、過度の磨耗、辺縁の劣化、歯髄症状の発現、歯髄壊死、修復材の破折などの多くの理由で失敗することがある。二次齲蝕は、再修復の主な原因のひとつである。充填材やボンディングシステム中の抗菌剤は理論的には修復物周囲からの齲蝕の発生や進行を抑制することができる。

目的: 齲蝕予防のためにコンポジット修復物に配合された、抗菌剤の効果を評価すること。

検索戦略: 2009年2月に以下のデータベースを検索した。: The Cochrane Oral Health Group's Trials Register; the Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) (The Cochrane Library 2009, Issue 1); OVID経由の MEDLINE (1950年から2009年2月)フィルターなし; OVID経由の EMBASE (1980年から2009年2月)フィルターなし。

選択基準: 抗菌剤を含むコンポジット修復物と抗菌剤を含まないコンポジット修復物を比較したランダム化比較試験(RCTs)。

データ収集と分析: 2名のレビュー著者が同時に独立して研究のスクリーニングを行った。適格な臨床試験は見つからなかったが、2名の著者は、標準的なコクラン共同計画の方法論を用いて、独立にデータ抽出と臨床試験の質の評価を計画した。

主な結果: この研究に関して128文献が検索されたが、いずれもこのレビューの選択基準に合わず、全ての研究が除外された。

レビューアの結論: 齲蝕予防のためにコンポジット修復物に添加された抗菌剤の効果についてのランダム化比較試験は見つからなかった。この介入効果に関して高いレベルのエビデンスがないことから、うまくデザインされた、十分な検出力のあるランダム化比較臨床試験が行われるべきである。

(翻訳 大山篤・監訳 林美加子; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年7月12日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。